

① 選定した地域の課題

・熊本市と市外における医療資源の格差が大きい

ホスピスに限らず、訪問看護や訪問診療（クリニック）なども含めて、地域間で提供体制に差が見られる。

・ACPのタイミングや内容を、地域とどのように連携させるかが課題

病院側が提供する情報と、地域側が求める情報との間にギャップがあり、円滑な情報共有が難しい状況がある。

・地域には小規模なグループやネットワークが存在するが、個別に活動しており連携が弱い

点在する活動が「点と点」の状態であり、面的なつながりや協働体制の構築が求められている。

② どんな地域を目指すのか

- ・患者さんの意向を尊重し、安心して過ごせるような地域

③ 目指す地域を実現するために取り組むべきこと

- ・患者さんの意向を組んだ情報を院内と院外で共有できる仕組み作り

④ 具体的な行動計画と ⑤ 目標達成時期

1) 患者・家族との意思共有支援

「私の日記」（熊本県がんがん連携サポートセンター作成）を活用
2025年11月より運用開始予定。患者の思いや希望を記録し、医療者間で共有するツールとして活用。

2) 地域医療資源との連携強化（2026年度目標）

新たな地域医療資源の開拓と、既存施設への再訪問を実施
訪問診療・訪問看護・ホスピス等を含め、情報共有と関係構築を図る。

3) 地域ニーズの把握と関係づくり（2026年度目標）

訪問診療医・訪問看護師・ステーション職員との症例カンファレンスを開催
実際の症例を通じて意見交換を行い、顔の見える関係性を構築。

4) 院内における多職種チームの立ち上げ（2026年1月頃）

地域緩和ケア調整員を中心とした小規模な多職種チームを設置
活動しやすい規模から始め、院内外との連携を促進。